

マンション賃料インデックス概況レポート  
2016年第3四半期

2016年12月21日発行

編集・発行：アットホーム株式会社  
レポート作成：株式会社三井住友トラスト基礎研究所

## 目次

本インデックスレポートをご覧いただく前に	P3
まとめ（全体概況）	P4
シングルタイプ 18㎡ ～ 30㎡未満	P5～P6
コンパクトタイプ 30㎡ ～ 60㎡未満	P7～P8
ファミリータイプ 60㎡ ～ 100㎡未満	P9～P10
マンション賃料インデックスについて	P11
ご利用にあたって	P12

## 本インデックスレポートをご覧いただく前に

### 1. マンション賃料インデックスとは

アットホームと三井住友トラスト基礎研究所が共同で開発した賃料インデックスです。アットホームが蓄積しているマンションの成約事例に基づいて作成しており、成約賃料をヘドニックアプローチと言われる統計的手法を用いて品質調整を行い、四半期ごとの価格（賃料）変化を指数化したものです。

### 2. 本資料の指数値について

本資料で掲載している数値（グラフ）は、モデル物件理論賃料（注1）を以下の手順で指数化したものです。※年4回公表している公表資料とは算出方法が異なります。

①モデル物件理論賃料（㎡単価）の年間（四半期）の移動平均値（注2）を算出

②①を「2009年第1四半期=100」として指数化

移動平均値を用いることにより、四半期のデータでありながら、成約時期の偏り（1月～3月の繁忙期とそれ以外の時期）や各四半期の成約事例の個別特性（品質調整で排除できない要素）による指数への影響を小さく表現できることで、中長期的なトレンドを解釈しやすくなります。

※本資料では1年を下記のように分割しております。

第1四半期（Q1）	1～3月	第2四半期（Q2）	4～6月	第3四半期（Q3）	7～9月	第4四半期（Q4）	10～12月
-----------	------	-----------	------	-----------	------	-----------	--------

（注1）モデル物件理論賃料とは

シングル・コンパクト・ファミリーのタイプごとに同品質の物件（モデル物件）を設定し、その物件の賃料を理論的に算出したもの。モデル物件の設定はP5（シングルタイプ）、P7（コンパクトタイプ）、P9（ファミリータイプ）をご参照ください。

（注2）移動平均値とは

時系列データを平滑化させる統計的な手法で、本資料においては、例えば2016年第2四半期の場合、2015年第3四半期・第4四半期・2016年第1四半期・第2四半期の4期間の平均値をとり、次の2016年第3四半期の場合は、2015年第4四半期・2016年第1四半期・第2四半期・第3四半期の4期間の平均値をとります。

### 3. 本資料の補足説明

マンション賃料インデックスは、全国12都市/エリア（東京23区、東京都下、横浜・川崎市、千葉西部、埼玉東南部、札幌市、仙台市、名古屋市、京都市、大阪市、大阪広域、福岡市）を公表しております。

なお、本資料に掲載するグラフの元となるデータ（指数）を無償でご提供しております。ご希望の方は、P12のお問合せ先までご連絡ください。

（データをご提供するにあたっては、申込書による申請が必要です。）

- ・アットホーム並びに三井住友トラスト基礎研究所では、今後も情報内容の改善並びに精度の向上を図り、サービス内容を向上させるとともに、ユーザーの皆様がより利用しやすい情報提供を目指して参ります。

# ■まとめ(全体概況)

(単位:ポイント)

都市別一覧		3年前同期比	前年同期比	前期比	2016年第3四半期(2016年7月~2016年9月)の概況
東京23区	シングル	↑↑ 6.03	↑ 2.54	↑ 0.53	シングルは、前期比、前年同期比ともに上昇し、緩やかな上昇傾向にある。コンパクトは、前期比で横ばい、前年同期比では上昇した。ファミリーは、前期比、前年同期比ともに横ばいとなった。全体的に堅調な動きが続いている。
	コンパクト	↑ 3.12	↑ 0.58	↑ 0.00	
	ファミリー	↑ 3.50	↑ 0.42	↑ 0.07	
東京都下	シングル	↑ 2.47	↑ 1.23	↑ 0.20	シングルおよびファミリーは、前期比で横ばい、前年同期比では上昇した。一方、コンパクトでは、前期比、前年同期比ともに低下した。
	コンパクト	↑ 0.13	↓ -1.02	↓ -0.65	
	ファミリー	↑ 1.36	↓ -0.87	↑ 0.23	
横浜・川崎市	シングル	↑ 0.88	↓ -0.81	↓ -0.04	シングル・コンパクト・ファミリー全てのタイプで、前期比で横ばいとなり、横ばい傾向が継続している。
	コンパクト	↑ 1.02	↑ 0.75	↑ 0.41	
	ファミリー	↑ 0.65	↑ 0.33	↑ 0.25	
埼玉東南部	シングル	↑ 0.69	↑ 0.63	↑ 0.42	シングル・コンパクト・ファミリー全てのタイプで、前期比で横ばいとなり、横ばい傾向が継続している。
	コンパクト	↑ 1.56	↑ 1.10	↓ -0.09	
	ファミリー	↑ 1.61	↑ 0.49	↑ 0.13	
千葉西部	シングル	↑ 0.45	↑ 0.98	↑ 0.30	シングルおよびコンパクトは、横ばい傾向で推移している。一方、ファミリーは、前期比、前年同期比ともに上昇しており、2014年後半以降の上昇傾向を維持している。
	コンパクト	↓ -0.85	↓ -0.17	↑ 0.00	
	ファミリー	↑ 3.26	↑ 2.13	↑ 1.06	
札幌市	シングル	↑↑ 12.69	↑ 4.29	↑ 1.12	シングルは、2012年以降の上昇傾向を維持している。一方、コンパクト、ファミリーとも前年同期比では上昇したが、一進一退でほぼ横ばい程度の動きが継続している。
	コンパクト	↑ 0.86	↑ 0.86	↑ 0.05	
	ファミリー	↑ 2.10	↑ 0.93	↑ 0.79	
仙台市	シングル	↑ 0.32	↓ -3.88	↓ -1.03	シングル・コンパクト・ファミリー全てのタイプにおいて、前年同期比で低下しており、特にシングルでは低下傾向となっている。
	コンパクト	↓ -1.55	↓ -1.02	↓ -0.21	
	ファミリー	↓ -1.35	↓ -0.75	↓ -0.09	
名古屋市	シングル	↑ 3.40	↑ 3.21	↑ 1.01	シングル・コンパクトは、前期比、前年同月比ともに上昇した。一方、ファミリーは、前期比、前年同月比ともに低下している。
	コンパクト	↑ 3.59	↑ 1.70	↑ 0.89	
	ファミリー	↑ 1.44	↓ -2.73	↓ -1.74	
京都市	シングル	↑ 3.50	↓ -1.48	↑ 0.24	シングルは、前年同月比で低下しており、2016年に入り低下している。一方、コンパクトは前期比、前年同期比ともに上昇しており、上昇傾向が継続している。
	コンパクト	↑↑ 11.11	↑ 1.76	↑ 1.34	
	ファミリー	↑ -	↑ -	↑ -	
大阪市	シングル	↑↑ 5.43	↓ -0.42	↓ -0.07	シングルは、前期比、前年同期比ともに横ばいとなり、2016年に入り横ばいの範囲で推移している。コンパクトは、前年同期比で上昇し、上昇傾向が維持している。ファミリーは前期比、前年同月比ともに低下しており、低下傾向で推移している。
	コンパクト	↑ 1.30	↑ 2.83	↑ 0.33	
	ファミリー	↓ -3.12	↓ -3.25	↓ -2.67	
大阪広域	シングル	↑ -	↑ -	↑ -	シングル・ファミリーは、前年同期比で低下しており、弱含んでいる。一方、コンパクトは、前年同期比で上昇しており、上昇傾向を維持している。
	コンパクト	↑ 5.75	↑ 1.10	↓ -0.36	
	ファミリー	↓ -2.52	↓ -0.69	↓ -0.35	
福岡市	シングル	↑↑ 6.80	↑ 0.59	↑ 0.06	シングル・コンパクト・ファミリー全てのタイプにおいて、前期比で横ばいであるが、前年同期比では上昇しており、緩やかな上昇傾向が継続している。
	コンパクト	↑ 4.70	↑ 0.83	↑ 0.49	
	ファミリー	↓ -0.99	↑ 2.02	↑ 0.44	

出所) 株式会社三井住友トラスト基礎研究所

注1) 記号凡例    ↓↓: 大幅に低下 (~5.00)    ↓: 低下 (-4.99~-0.51)    →: 横ばい (-0.50~+0.50)

                  ↑: 上昇 (+0.51~+4.99)    ↑↑: 大幅に上昇 (+5.00~)

注2) 東京都下: 武蔵野市、府中市、調布市、立川市、三鷹市、国分寺市、国立市、小金井市、八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市、西東京市、小平市、狛江市

千葉西部: 柏市、松戸市、流山市、我孫子市、市川市、浦安市、習志野市、船橋市

埼玉東南部: さいたま市大宮区・中央区・浦和区・南区、川口市、草加市、越谷市、蕨市、戸田市、朝霞市、和光市

大阪広域: 大阪市西区・浪速区・中央区・福島区・北区・都島区・天王寺区・阿倍野区・東淀川区、吹田市、豊中市、高槻市、茨木市、尼崎市、西宮市、芦屋市

注3) 京都市のファミリータイプはサンプル数の関係から参考値扱いのためコメントの対象とはしていません。

## ■シングルタイプ(18㎡以上30㎡未満)：多くの都市で上昇基調が続くも、都市により差異

### 1. 今期の概要

賃料インデックス（シングル）は、前期比（2016年第2四半期比、以下同じ）で東京23区、札幌市、名古屋市は上昇し、仙台市、大阪広域は低下した。その他の都市/エリアでは横ばいでの推移となった。

前年同期比（2016年第3四半期比、以下同じ）では、横浜・川崎市、仙台市、京都市、大阪広域は低下した。一方、その他の都市/エリアでは横ばいないし上昇しており、緩やかな上昇基調が継続している。

※各グラフに掲載している指数は、以下のモデル物件の理論賃料を指数化（2009.Q1=100）したものである。

### ○シングルタイプのモデル物件属性

駅距離；	徒歩6分
住戸面積；	25㎡
住戸所在階；	4階
築年数；	10年

### 2. 圏域別動向

#### (1) 首都圏（東京23区、東京都下、横浜・川崎市、埼玉東南部、千葉西部）

首都圏における賃料インデックス（シングル）は、前期比で東京23区を除く全ての都市/エリアで横ばいで推移した。一方、前年同期比では、横浜・川崎市を除く全ての都市/エリアで上昇した。

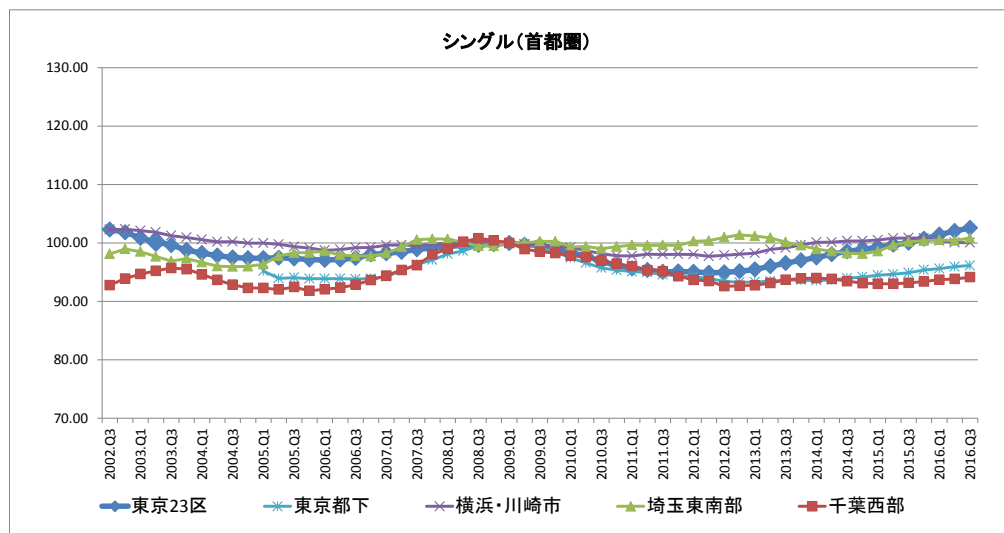
東京23区は、前期比で+0.53ポイント、前年同期比で+2.54ポイントとなり、上昇傾向が続いている。東京都下は前期比で+0.20ポイント、前年同期比では+1.23ポイントとなり、緩やかに上昇している。

横浜・川崎市は、前期比で-0.04ポイント、前年同期比でも-0.81ポイントとなった。

埼玉東南部は、前期比で+0.42ポイント、前年同期比で+0.63ポイントとなり、横ばい傾向が継続している。

千葉西部は、前期比+0.30ポイント、前年同期比では+0.98ポイントとなり、ほぼ横ばいで推移している。

図表1-1 首都圏5都市/エリアの推移（シングル・年間移動平均）2009年第1四半期=100



※東京都下のシングルは、2005年第1四半期以降公表。

(2) 名古屋圏（名古屋市）と近畿圏（大阪市、大阪広域、京都市）

名古屋圏および近畿圏の賃料インデックス（シングル）は、前期比で名古屋市は上昇、大阪市、京都市は横ばい、大阪広域では低下した。

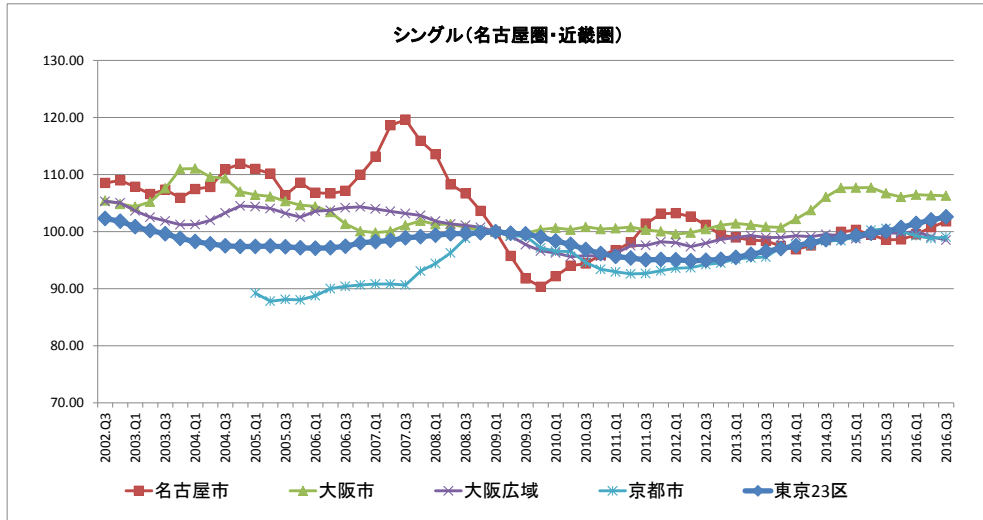
名古屋市は、前期比+1.01ポイントの上昇となり、上昇基調で推移している。

大阪市では、前期比-0.07ポイントで横ばいとなり、2016年に入り横ばいの範囲で推移している。

大阪広域は、2013年第1四半期からの横ばいで推移していたが、今期は前期比で-0.56ポイント、前年同期比では-1.25ポイントと低下した。

京都市は、前期比では+0.24ポイントと横ばいだったが、前年同期比でみると-1.48ポイントと低下している。

図表1-2 名古屋圏・近畿圏4都市/エリアの推移（シングル・年間移動平均）2009年第1四半期=100 \* 東京23区は比較用



※京都市のシングルは、2005年第1四半期以降公表。

(3) その他の地方圏（札幌市、仙台市、福岡市）

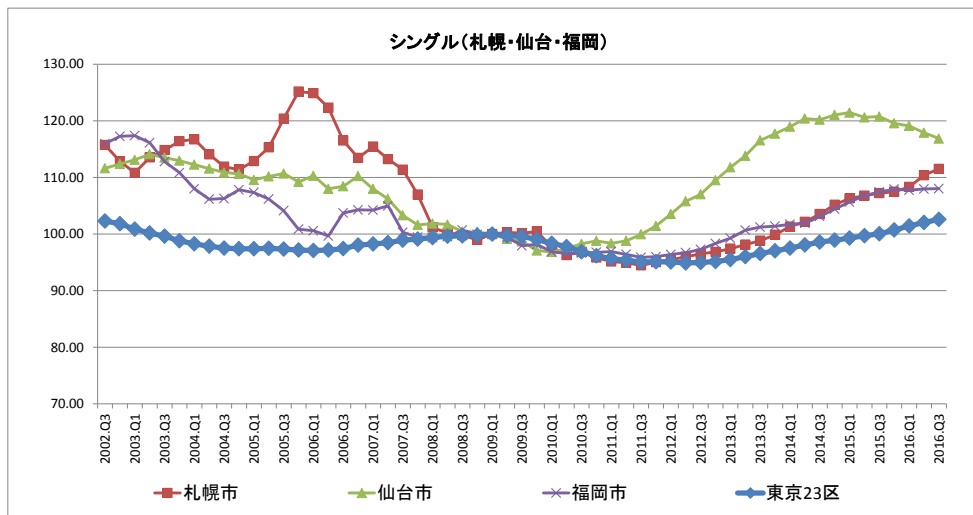
その他の地方圏の賃料インデックス（シングル）は、前期比で札幌市は上昇、福岡市は横ばい、仙台市では低下した。

札幌市は、前期比で+1.12ポイント、前年同期比でも+4.29ポイントの上昇となり、上昇傾向が継続している。

仙台市は、前期比で-1.03ポイント、前年同期比でも-3.88ポイントと低下傾向にある。

福岡市は、前期比で+0.06ポイントと横ばいとなったが、前年同期比では+0.59ポイントと上昇し、緩やかな上昇傾向が継続している。

図表1-3 地方3都市の推移（シングル・年間移動平均）2009年第1四半期=100 \* 東京23区は比較用



## ■コンパクトタイプ(30㎡以上60㎡未満)：横ばいまたは緩やかな上昇傾向が継続

### 1. 今期の概要

賃料インデックス（コンパクト）は、前期比で名古屋市、京都市は上昇、その他の都市/エリアでは東京都下を除き横ばいでの推移となった。前年同期比では、東京都下、千葉西部、仙台市を除く都市/エリアで上昇した。

首都圏では横ばい傾向、それ以外の地方都市では緩やかな上昇傾向が継続している都市/エリアが多い。

※各グラフに掲載している指数は、以下のモデル物件の理論賃料を指数化（2009.Q1=100）したもの

### ○コンパクトタイプのモデル物件属性

駅距離；	徒歩6分
住戸面積；	45㎡
住戸所在階；	4階
築年数；	10年

### 2. 圏域別動向

#### (1) 首都圏（東京23区、東京都下、横浜・川崎市、埼玉東南部、千葉西部）

首都圏における賃料インデックス（コンパクト）は、前期比で東京都下を除き、横ばいで推移している。

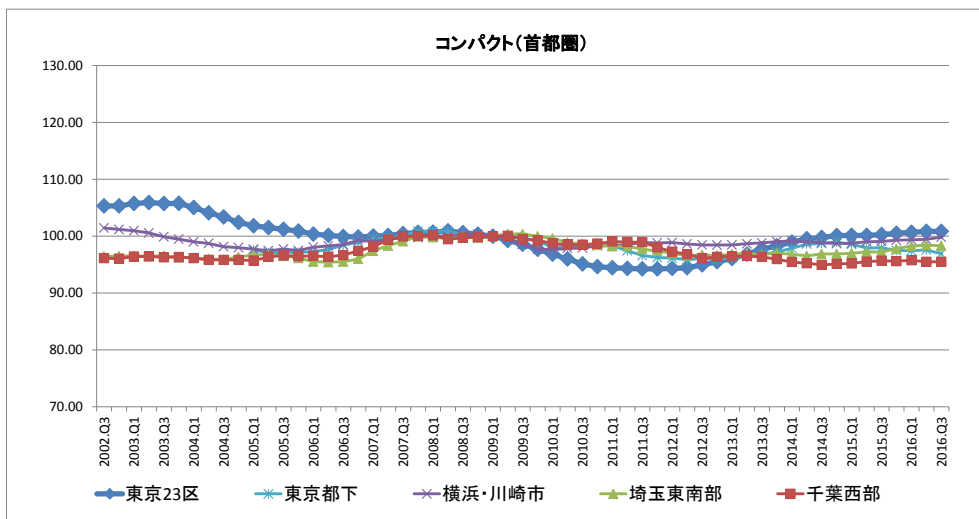
東京23区は、2014年以降、ほぼ横ばいで推移しており、今期も前期比0.00ポイントで横ばいとなった。一方、東京都下は、前期比で-0.65ポイントと低下、前年同期比でも-1.02ポイントと低下した。

横浜・川崎市は、前期比+0.41ポイントと横ばいとなり、横ばい傾向が継続している。

埼玉東南部は、前期比+0.09ポイントと横ばいとなり、2010年第3四半期からはほぼ横ばいで推移している。

千葉西部は、前期比で0.00ポイント、前年同期比では-0.17ポイントと横ばいとなった。

図表2-1 首都圏5都市/エリアの推移（コンパクト・年間移動平均）2009年第1四半期=100



※東京都下のコンパクトは、2005年第1四半期以降公表。

(2) 名古屋圏（名古屋市）と近畿圏（大阪市、大阪広域、京都市）

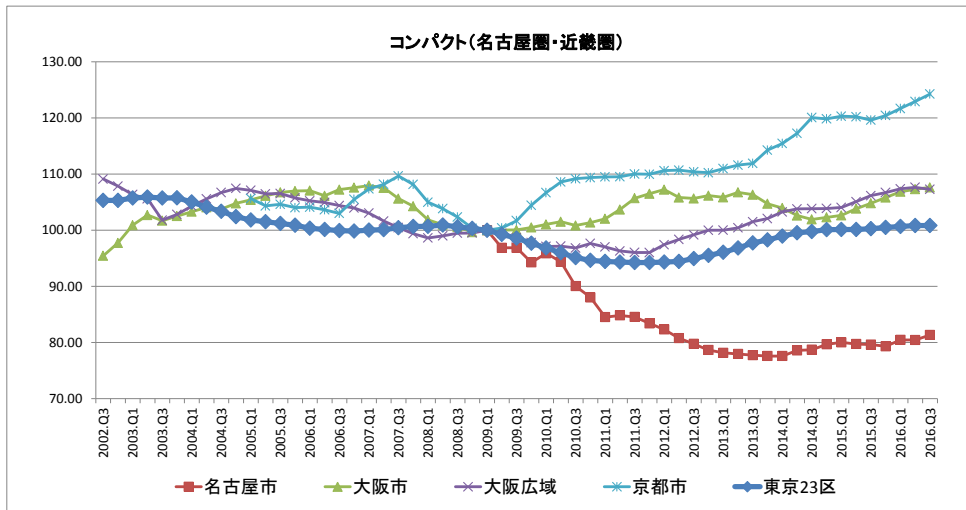
名古屋圏および近畿圏の賃料インデックス（コンパクト）は、前期比で名古屋市、京都市が上昇、前年同期比では全ての都市/エリアが上昇しており、上昇傾向にある。

名古屋市は、前期比で+0.89ポイント、前年同期比では+1.70ポイントと上昇しており、2016年に入り上昇基調となっている。

京都市は、2015年第4四半期以降、上昇傾向が継続している。今期も前期比で+1.34ポイント、前年同期比では+1.76ポイントと上昇した。

大阪市は、前期比で+0.33ポイント、前年同期比では+2.83ポイントとなり、上昇傾向を維持している。大阪広域は、前期比で-0.36ポイントであったが、前年同期比では+1.10ポイントとなり、上昇傾向を維持している。

図表2-2 名古屋圏・近畿圏4都市/エリアの推移（コンパクト・年間移動平均）2009年第1四半期=100 \* 東京23区は比較用



※名古屋市のコンパクトは、2009年第1四半期以降公表。

(3) その他の地方圏（札幌市、仙台市、福岡市）

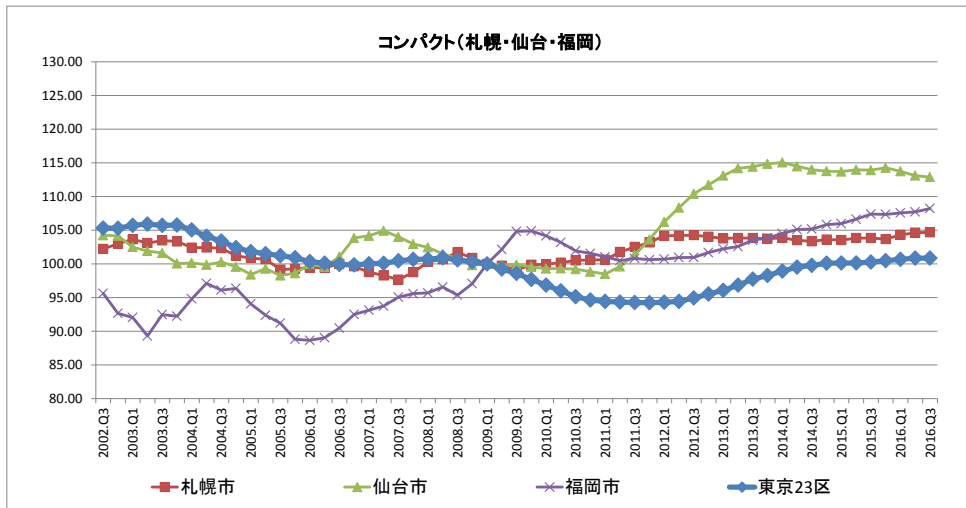
その他の地方圏における賃料インデックス（コンパクト）は、前期比で全ての都市で横ばいとなった。前年同期比では札幌市、福岡市は上昇し、仙台市は低下した。

札幌市は、前期比で+0.05ポイント、前年同期比では+0.86ポイントとなり、横ばい傾向が継続している。

仙台市は、前期比で-0.21ポイント、前年同期比では-1.02ポイントとなり、2016年に入り弱含んでいる。

福岡市は、前期比で+0.49ポイントと横ばいとなったが、前年同期比では+0.83ポイントと上昇しており、緩やかな上昇傾向が継続している。

図表2-3 地方3都市の推移（コンパクト・年間移動平均）2009年第1四半期=100 \* 東京23区は比較用





## ■ファミリータイプ(60㎡以上100㎡未満)：堅調な動きが続くも、一部の都市では弱含み

### 1. 今期の概要

賃料インデックス(ファミリー)は、前期比で千葉西部、札幌市は上昇、名古屋市、大阪市は低下、その他の都市/エリアでは横ばいとなった。

前年同期比では、千葉西部、札幌市、福岡市は上昇、東京23区、横浜・川崎市、埼玉東南部は横ばい、その他の都市/エリアでは低下した。

多くの都市/エリアで堅調な動きが継続しているが、一部の都市(名古屋市・大阪市)は弱含んでいる。

※各グラフに掲載している指数は、以下のモデル物件の理論賃料を指数化(2009.Q1=100)したものの

#### ○ファミリータイプのモデル物件属性

駅距離;	徒歩6分
住戸面積;	75㎡
住戸所在階;	4階
築年数;	10年

### 2. 圏域別動向

#### (1) 首都圏(東京23区、東京都下、横浜・川崎市、埼玉東南部、千葉西部)

首都圏における賃料インデックス(ファミリー)は、前期比で千葉西部は上昇、その他の都市/エリアでは横ばいとなった。

東京23区は、2014年第2四半期以降、横ばいで推移しており、今期も前期比+0.07ポイントで横ばいとなった。

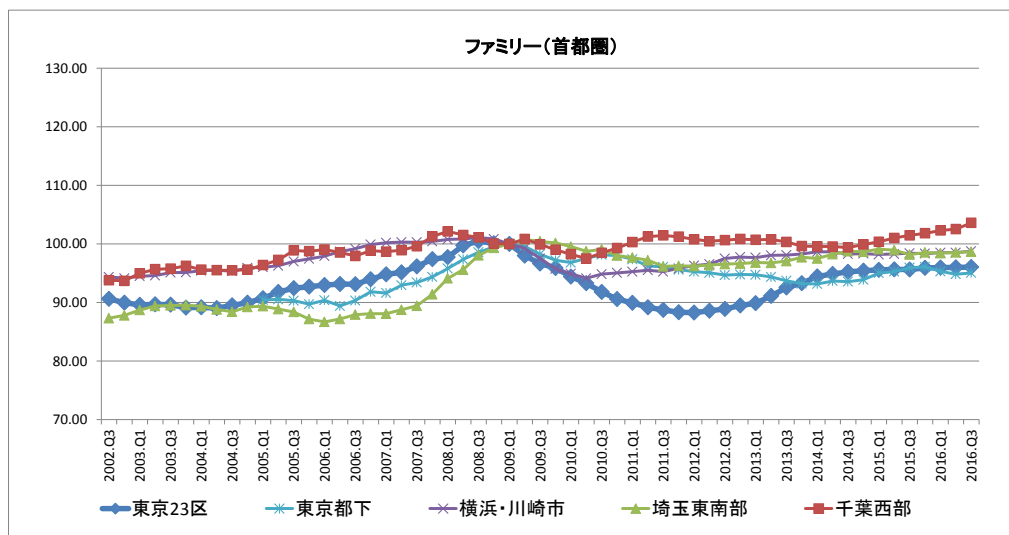
東京都下は、前期比で+0.23ポイントと横ばい、前期同期比では-0.87ポイントと低下した。2014年第1四半期に底打ちし上昇傾向が続いてきたが、2016年に入り上昇傾向に一服感が見られる。

横浜・川崎市は、前期比で+0.25ポイント、前年同期比では+0.33ポイントとほぼ横ばいでの推移が継続している。

埼玉東南部は、前期比で+0.13ポイント、前年同期比では+0.49ポイントとほぼ横ばいの動きが続いている。

千葉西部は、前期比で+1.06ポイント、前年同期比では+2.13ポイントと上昇しており、2014年後半以降、上昇基調で推移している。

図表3-1 首都圏5都市/エリアの推移(ファミリー・年間移動平均) 2009年第1四半期=100



※東京都下のファミリーは、2005年第1四半期以降公表。

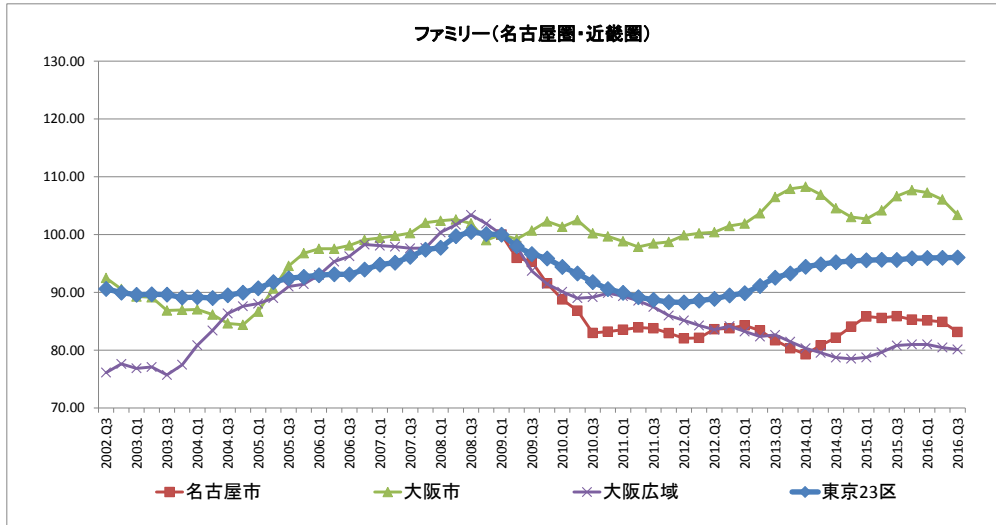
(2) 名古屋圏（名古屋市）と近畿圏（大阪市、大阪広域）

名古屋圏および近畿圏における賃料インデックス（ファミリー）では、前期比で大阪広域は横ばい、名古屋市、大阪市は低下した。

名古屋市は、2015年第4四半期以降、低下基調で推移しており、今期も前期比-1.74ポイントと低下した。

大阪市は、前期比-2.67ポイントと低下としており、2016年に入り低下傾向で推移している。大阪広域は、前期比-0.35ポイントで横ばいとなり、横ばいでの推移が継続している。

図表3-2 名古屋圏・近畿圏3都市/エリアの推移（ファミリー・年間移動平均）2009年第1四半期=100 \* 東京23区は比較用



※名古屋市のファミリーは、2009年第1四半期以降公表。

(3) その他の地方圏（札幌市、仙台市、福岡市）

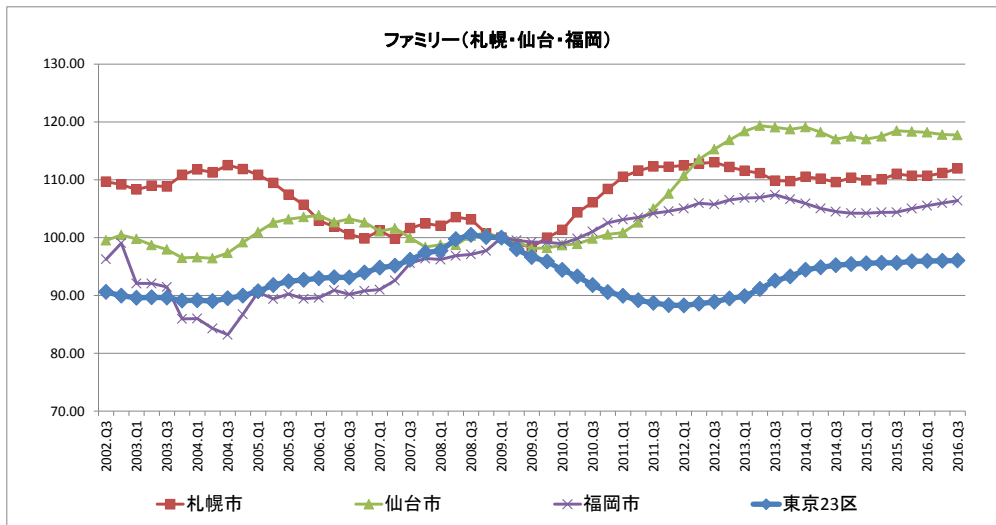
その他の地方圏における賃料インデックス（ファミリー）は、前期比で札幌市は上昇、仙台市、福岡市は横ばいでの推移となった。

札幌市は、前期比で+0.79ポイント、前年同期比では+0.93ポイントと上昇している。2013年以降一進一退でほぼ横ばいで推移していたが、2016年に入り緩やかな上昇基調となっている。

仙台市は、前期比で-0.09ポイントと横ばいとなり、2015年第4四半期以降、横ばいでの推移が継続している。

福岡市は、前期比で+0.44ポイントと横ばい、前年同期比+2.02ポイントと上昇した。2015年第4四半期以降、緩やかな上昇傾向で推移している。

図表3-3 地方3都市の推移（ファミリー・年間移動平均）2009年第1四半期=100 \* 東京23区は比較用



# マンション賃料インデックスについて

## 1. 概要

マンション賃料インデックスは、アットホーム（株）と（株）三井住友トラスト基礎研究所が共同で開発した賃料インデックスです。ヘドニックアプローチと言われる統計的手法を用いて個別の成約事例について品質調整を行い、四半期ごとの賃料変化を指数化したものです。

## 2. 特徴

### ●成約事例に基づく賃料インデックス

アットホーム（株）が蓄積しているマンション成約事例に基づいて作成しており、成約ベースの賃料や成約時期等、賃貸マンション市場動向を反映したインデックスとなっております。

### ●ヘドニックアプローチにより品質調整された賃料インデックス

駅距離等の主要な賃料形成要因について、ヘドニックアプローチという統計的手法を用いて品質調整を行っており、不動産の個性性による影響を軽減した賃料動向を表すインデックスとなっております。

### ●エリア別、タイプ別の賃料推計モデルにより算出された賃料インデックス

エリア別、タイプ別に賃料推計モデル式を構築しております。この賃料推計モデル式により、エリア別、タイプ別の推計を表すインデックスを算出しております。

## エリア、タイプについて

### 1. エリア

東京23区、東京都下、横浜・川崎市、千葉西部、埼玉東南部、札幌市、仙台市、名古屋市、京都市、大阪市、大阪広域、福岡市

### 2. タイプ

- シングルタイプ 18㎡以上 30㎡未満
- コンパクトタイプ 30㎡以上 60㎡未満
- ファミリータイプ 60㎡以上100㎡未満

※タイプは、住戸面積別に3タイプを設定し、区分しております。

※面積以外のモデル物件属性は、駅距離徒歩6分・住戸所在階4階・築年数10年。

## インデックス算出方法

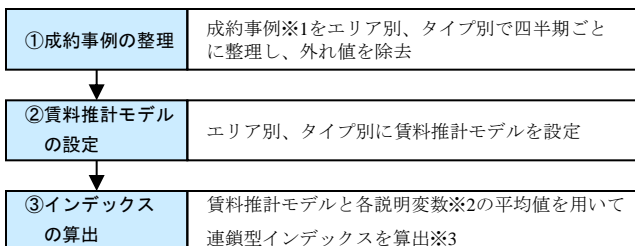
### 1. 抽出条件

建物構造	駅距離	住戸面積
RC・SRC	駅徒歩15分以内	18㎡以上100㎡未満

### 2. 対象期間

第1四半期（Q1）	1月～3月	第3四半期（Q3）	7月～9月
第2四半期（Q2）	4月～6月	第4四半期（Q4）	10月～12月

### 3. 算出の流れ



※1 アットホーム（株）が蓄積しているデータです。

※2 駅距離、住戸面積、住戸所在階、築年数です。

※3 小数第3位を四捨五入しています。

## ご利用にあたって

- マンション賃料インデックスは、以下の特性を充分にご理解のうえご利用ください。
  - ①マンション賃料インデックスに記載された数値は、過去の実績に基づき計算された数値であること。また、社会情勢や周辺の環境が変化することにより対象不動産の収益性はいかようにも変化すること。したがって、インデックスが将来の収益等を保証するものではないこと。
  - ②マンション賃料インデックスは、対象とする範囲の平均的な物件の賃料を示すものであり、個別の不動産の賃料は、個別の事情により影響を受けること。
- マンション賃料インデックスは、アットホーム(株)および(株)三井住友トラスト基礎研究所が共同で開発したもので、両社の知的財産です。
- アットホーム(株)の許可なく、マンション賃料インデックスに記載された情報を転載、複製、改変することを固く禁じます。
- マンション賃料インデックスに記載された情報を第三者に提供する場合、または金融商品の組成等に利用する場合は、あらかじめ下記お問合せ先にご照会のうえ、所定の手続きにより許諾を得てください。
- マンション賃料インデックスをもとに利用者の皆様で作成された図表等について、アットホーム(株)および(株)三井住友トラスト基礎研究所は、一切の責任を負いません。
- マンション賃料インデックスの公表は、記載された情報を利用者に提供することのみを目的とするものであり、商品(金融商品を含みます)、サービスまたは権利の販売その他の取引の申込み、勧誘、斡旋、媒介等を目的とするものではありません。
- アットホーム(株)および(株)三井住友トラスト基礎研究所は、マンション賃料インデックスに記載された情報について、その正確性、有用性等を保証するものではなく、マンション賃料インデックスに数値的な誤り等があり、利用者の皆様が損害を被った場合であっても一切責任を負いません。
- アットホーム(株)および(株)三井住友トラスト基礎研究所は、自らの判断により、利用者の皆様に事前の通知をすることなく、マンション賃料インデックスの内容の更新、追加、変更、削除または改廃等を行うことがあります。
- アットホーム(株)および(株)三井住友トラスト基礎研究所は、マンション賃料インデックスの内容の更新、追加、変更、削除もしくは改廃等、マンション賃料インデックスの提供に関するシステムの保守点検、機器・回線等の故障もしくは停止または停電、天災地変その他のやむを得ない事由の発生等により、利用者の皆様に事前の通知をすることなく、マンション賃料インデックスの提供を中断または停止することがあります。なお、アットホーム(株)および(株)三井住友トラスト基礎研究所は、当該マンション賃料インデックスの提供の中断または停止により利用者の皆様が損害を被った場合であっても一切責任を負いません。

2016年12月21日発行

編集・発行 アットホーム株式会社 〒144-0056 東京都大田区西六郷4-34-12  
(賃料指数の作成・図表提供 株式会社三井住友トラスト基礎研究所)

### 【お問合せ先】

アットホームカスタマーセンター TEL: 0570-01-1967 (PHS・IP電話の方はTEL: 045-330-3410まで)  
FAX: 045-330-3415

※受付時間 9:00~17:00 [土、日、祝祭日、特定日を除く]

## <マンション賃料インデックス「東京版」「横浜・川崎版」販売商品のお知らせ>

首都圏都心部のより詳細なマンション賃料インデックス「東京版(都心部主要21エリア)」「横浜・川崎版(主要9エリア)」を販売しております。2001年第4四半期(10月~12月)以降の数値データをEXCEL形式にてご提供いたします。

### ※ご提供内容変更のお知らせ

本資料の連鎖型に加えご提供して参りました固定型およびモデル物件理論賃料につきましては、2015年第4四半期(2016年3月公表予定)をもちましてご提供を終了いたしました。

### <販売価格>

マンション賃料インデックス

「東京版」「横浜・川崎版」

定価

**各 3,000円(税別)**

アットホーム会員価格

**各 2,000円(税別)**

※宅配便納品(CD-R)の場合は、別途送料が必要です。

お申込み等につきましては、  
上記アットホームカスタマーセンターまで  
お問い合わせください。

### 商品サンプル(EXCEL形式)

